

<p>教育目標: ・健康な子ども ・進んで学ぶ子ども ・心の豊かな子ども ・よく働きなしとげること ・考えるふうすること</p> <p>めざす学校像: 心づくり、体づくり、学びづくり、協働による人づくりを実践する学校</p> <p>めざす児童像: 3つの「あい」に一生懸命取り組んでいる子供(あいさつ、アイデア、高め合い)</p> <p>めざす教師像: 「法の遵守とサービスの厳正」、「プロとしての自覚と使命感」、「組織人としての言動」、「公務員としての社会性・協調性・コミュニケーション能力」を兼ね備えた教師</p>

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標		成果指標		分析コメント	改善策
				中間	最終	中間	最終		
心づくり	すべての人を大切に する人権意識を醸成し、共感的な人間関係を育む。	相手を思いやり、命を大切に する豊かな心を育てる。	ふれあい月間、人権月間 を活用、挨拶励行や言語 環境を整える取組を工夫 し実施する。	4		3		全教職員で挨拶励行に努めている。児童アンケートにおいても、「すすんで挨拶している。」の項目の肯定的回答が92%得られた。相手を思いやる言葉遣いや言動について代表委員会を中心とした自主的な活動を促したい。	ふれあい月間を中心に、いじめアンケートの確実な実施と共有を継続していく。また、第二中学校と連携した挨拶運動等、児童発信の取組を活性化させ自主的な活動へとつなげていく。
		学校・学級の帰属意識 を高め、自己肯定感を 醸成する。	学級活動・学級会・縦割り 班活動等特別活動の充 実を図り、自他の良さを伸 長させる。	4		4		保護者アンケート「楽しく学校生活を送っている。」の項目について、9割以上の肯定的回答が得られた。今後より一層居心地の良い環境づくりのため、具体的な取組を行っていく。	特別活動の充実を継続し、自分も人も大切に する心を育てる。特に学級活動を基盤とした集団 での意思決定、縦割り班活動による協同を大切 にし、帰属意識を高め、自己肯定感を醸成す る。
学びづくり	主体的・対話的で深い 学びを実践し、確かな 学力を育成する。	問題解決的な学習を重視し、主体的な学びに つながるよう授業改善 を図る。	単元を意識した学習計画 をもとに、児童に見通しを もたせ、「できる」「わかる」 授業を展開する。	4		3		児童アンケート内での肯定的回答が一番少 なかつた項目である。教員が主体的な学 びを意識しているがために、児童が求めら れるほど活動できていない、時間がかかっ てしまう、苦手と感じてしまっているよう だ。	校内研究を通して、問題解決的な学習の充実 を目指し、児童自らが学ぶ意義を見出すこと ができるよう授業改善を図る。一人一人が「できる」 「わかる」「楽しい」を実感できるよう、個に応じた 指導の充実を図る。
		タブレット端末を効果的 に活用し、情報活用能 力を育成する。	学習場面でタブレット端末 を日常的に活用し、情報 活用能力を育成すると ともに、深い学びをめざす。	4		2		タブレット端末の日常的な活用について授業改善の工夫により教員及び児童アンケートでは、肯定的な回答が多く見られた。しかし、日常的に家庭への持ち帰りを行っていないこともあり保護者アンケートは否定的回答が肯定的回答を上回っていた。	児童・教員の意識は高いが、日常的なタブレット 端末の活用については今後さらなる深化が必要 である。校内で活用状況や方法を共有し、教科・学習内容に応じて取組を選択できる水準まで到達させていきたい。
体づくり	自ら体を動かすとともに、 すすんで健康な生活を送ろうとする態度 を育成する。	運動の日常化や体力の 維持向上を図る。	外遊びの励行、運動量を 確保した体育授業、体力 調査結果に基づいた取組 を実施する。	4		3		増築工事の関係で校庭使用に制限があり、 外遊びを学年ごとに割り当てている状況 ではあるが、教員が率先して児童と共に休 み時間に外で遊んでいる。また、体育授業 の中で運動量を確保できるよう工夫してい る。	引き続き外遊びの励行のために教員が率先し て校庭で児童と共に休み時間を過ごす時間 を確保する。また、体育的活動の充実を図り、「運 動の楽しさ」や「体を動かすことの心地よさ」を実 感できるようにする。
		日常生活習慣の指導 を図り、心身の健康への 意識向上を図る。	「早寝、早起き、朝ごはん」をスローガンに掲げ、 児童・保護者に啓発を図る。また、食育を意図した 取組を年間2回実施する。	2		4		1学期初めの保護者会で、家庭に「早寝、早 起き、朝ごはん」を周知し、協力を得るこ とができた。保護者アンケートでも意識の 高さが見られた。食育活動は低学年を中心 に給食と関連付けて行った。	給食指導に関連付けて、旬の食材や地場野 菜、行事食など身近な場面から食育活動の充 実を図る。校長講話、保健だより、給食だより を通して「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さの啓 発を図る。
協働	コミュニティ・スクールと して、開かれた学校づ くりを推進・充実させ る。	学校情報の発信に努 め、学校の見える化を推 進する。	学校だよりをはじめ各種た より、学校公開、保護者 会、ブログの充実を図る。 CS協議を中心とした地域 との連携を深める。	4		4		情報発信については、保護者は肯定的に回 答していた。児童アンケート「地域の行事 に参加していますか」に対して否定的で あったり、教員の地域参画型授業は改善の 必要があると感じていたりすることが課題 である。	コミュニティ・スクールの在り方について、周知を 図るとともに、保護者・地域とともに参画型授業 を計画していくことは急務である。2学期に立ち 上げた保護者ボランティアを活性化させていくこ とから実践へとつなげていく。